

# 08年 マイワシ

単位：数量、1,000トン、価格、円/kg

年	漁獲	産地	数						加工品生産					消費支出 生(2)	
			輸入		輸出		東京		在庫	加工		生産			
			ミール	生冷	生冷	缶	生	煮干		缶	身入	塩蔵	煮干		塩干
19	79	41.7	347	16.8	3.9	0.12	4.9	2.4	21.6	8.1	0.9	32.7	23.5	947	
20	37.7	15.8	304	20.2	0.7	0.14	3.2	2.7	14.6					691	
%	48	38	88	121	19	118	66	111.4	68	0	#####	0	0	0	73

年	産地	価 格						消費支出 生(円)	海域	19	20	対比(%)
		輸入	輸出	東京	消費支出							
		ミール	生冷	生冷	缶	生	煮干					
19	101	125	84	103	609	453	609	739	道東	0	0	#DIV/0!
20	112	104	88	92	1222	523	586	588	三陸	7	3	40
%	111	83	105	89	201	115	96	80	常磐	29	7	24
									九州	1	1	62
									山陰	3	4	146
									その他	2	1	45

MAX S63年、4488千トン

## 漁獲量と資源

20年のマイワシの漁獲量は、少ないながらも3.1万トンと前年の7.9万トンを大幅に下回った。

道東漁場では、引続きマイワシの漁獲は皆無であったがカタクチイワシも約764トンで前年（52トン）を大幅に上回ったが水準としては低かった。北部太平洋海域のマイワシの漁獲は三陸・常磐とも前年を大きく下回る漁獲に終わった。また、近年漁獲の急減をみている山陰では、水準としては低く混獲ながらも前年をかなり上回る漁獲であった。

太平洋系群のマイワシの資源量は1981～1988年の間1,400万～1,900万トンと高水準で安定していたが、1989年から急減し、1994年には88万トンとなった。1995～1999年までは70万トンを超えて低水準ながら比較的安定していたが、2000年から再び減少傾向となり、2003年は12.5万トンとなった。2003年以降は増加傾向となり、2007年は15.9万トンと推定された。2008年の資源量は、2008年級の加入尾数を約11.7億尾とする仮定のもとで15.3万トンと推定されている。

対馬暖流系群の資源量はコホート解析の結果から、資源量は1970年代から増加し、1988年には1千万トンに達した。その後減少し、1995年には100万トンを下回り、2001年にはBban（資源量5千トン）を下回り、過去最低水準であったと推定される。2004年以降は増加傾向にあり、2007年資源量は31千トン（参考値）と推定された。資源水準は極めて低位にあり、動向は増加傾向と判断されている。

## 産地水揚量と価格

20年の水揚量は、1.6万トンで前年（4.2万トン）を大きく下回った。したがって価格は、112円で前年（101円）を上回った。

北部太平洋海域での漁は、常磐主体であったが昨年を大きく下回っている。

なお、本年のミール相場も、年明けの16万円/トンの比較的高値から始まったが、2月中旬に13万円/トン、3月上旬12万円/トンまで下げた。その後4月上旬に再度15.5万円/トン、5月中旬17.3万円/トンまで急騰し、この価格が年末まで続いた。

## 三 陸

20年の三陸での漁況は、初漁期（北上期）の4、5月は若干の漁獲、夏場にかけては昨年をやや下回り、依然水準としては今年も低かった。

三陸(単位:1000トン)			常磐(単位:1000トン)		山陰(単位:1000トン)		日本海北(単位:1000トン)	
月	19年	20年	19年	20年	19年	20年	19年	20年
1	0.4	0.0	9.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0
2	0.0	0.0	2.4	0.2	0.0	0.1	0.0	0.0
3	0.0	0.0	2.1	0.3	0.2	1.4	0.0	0.0
4	0.0	0.0	0.6	0.1	0.0	1.3	0.0	0.0
5	0.0	0.3	0.7	0.4	0.0	1.3	0.0	0.0
6	0.1	0.0	4.3	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0
7	3.4	0.0	7.5	0.8	0.9	0.0	0.0	0.0
8	1.7	2.3	1.0	1.8	0.1	0.0	0.0	0.0
9	0.4	0.0	0.3	0.3	0.0	0.3	0.0	0.0
10	0.2	0.0	0.4	0.9	1.7	0.0	0.0	0.0
11	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
12	0.0	0.0	0.2	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0
計	6.6	2.7	28.5	6.8	3.0	4.4	0.1	0.0
MAX S61年1097千トン			MAX S58年822千トン		MAX H元年713千トン		MAX	

秋から冬場の南下期も漁獲皆無となり低水準であった。

魚体は、周年を通じて2007年級群主体に漁獲された。

## 常 磐

20年の常磐での漁況は、初漁期は比較的良かった前年より低調で、北上期にも前年をやや下回った。また、後半の南下期は前年をやや上回ったが低調な水準に変化はなかった。

魚体は、周年を通じて2007年級群主体に漁獲された。

## 山 陰

20年の山陰での漁況は、上半期に混獲ながらややまとまった他は、全漁期を通じて昨年並みの低調な漁況であった。

また本年も上半期3、4月に集中的にまとまったカタクチイワシの漁獲があり、水揚げも前年並みであった。

## 在 庫 量

本年の平均在庫量は、1.5万トンとなり前年(2.2万トン)をかなり下回った。これは、特に低水準な資源水準の中でも、国内生産が昨年をかなり下回ったことの結果である。越年在庫は1.8万トンで前年(1.6万トン)を上回った。

## 輸 出 入

本年の輸入ミールは、30.4万トンで前年(34.7万トン)を引き続き下回った。

輸入ミールは21世紀に入って再度増加傾向を見せて、この2002、2001年間は40万トン台に輸入量も回復しつつあり、2006年も2002年以来の40万トン突破となったが、2007年以降市況が高騰やアンチョビーの不振もあって30万トン台前半の水準に落ちた。

また、平成7年頃から餌料不足により外国(米国、メキシコ)からの原魚輸入もみられていたが、現在も、依然この両国が主体で生・冷マイワシは(夫々8,849トン、8,970トン)であり、缶詰主体

に鮮魚向け、一部は餌料にも国産の代用品として利用・販売されている。また、その他少ないながらもEU、カナダ、オランダ、中国等からも輸入されている。また国内漁獲が低調だったこともあり本年は2万トンで前年（1.7万トン）を上回った。

輸出は缶詰と冷凍に分かれるが、缶詰輸出は、サバ缶同様減少の一途を辿っていたが、本年は0.1千トンで前年（0.1千トン）並みであった。

また、冷凍輸出は国内漁獲が低調であったこともあり0.7千トンと前年（3.9千トン）を大幅に下回った。

価格は、缶詰が1222円で前年（609円）を大幅に上回り、冷凍は92円で前年（103円）を下回った。

### **消費地入荷量と価格**

本年の東京の入荷量も、3.2千トンで前年（4.9千トン）を下回った。

マイワシは近年の資源量の低水準の中で、消費地でのマイワシの入荷も少ないが、本年は昨年を更に下回った。

価格は、523円で前年（453円）を上回ったが、入荷の減少を反映し、堅調相場であった。なお、家計消費でみると数量、購入金額ともかなりの減少をみた。

煮干しは、2.7千トンで前年（2.4千トン）をやや上回った。